

## 第2章 研究会の活動及び成果報告

### 1. 先進地視察研修報告

#### (1) 平成26年度実施分

##### ア 日時

平成26年10月27日（月）午前8時から午後6時まで

##### イ 視察先及び目的

- ① 滋賀県彦根市 : 空き町屋を活用した地域活性化
- ② 滋賀県竜王町 : アウトレットを活用した町活性化の取り組み

##### ウ 参加者

委員 津田座長、田中副座長、小原書記、和田委員、森井委員  
事務局員 上田 計6人

##### エ 視察研修内容まとめ

#### ① 彦根市「小江戸ひこね町屋情報バンク」

（小江戸ひこね町屋活用コンソーシアム 柴田委員）

（彦根商工会議所 迫間経営指導員）

○ 商工会・市・大学などで構成するコンソーシアムが、旧市街地に残る伝統的な商家や町屋などの「空き家バンク」を運営し、所有者と活用希望者のマッチング、空き町屋の管理、各種イベントなどを行っている。

○ 商工会が中心となり、異業種（不動産業者、設計業者、金融業者など）を巻き込んだ「空き家バンク」の体制（※1）が、  
‘空き家の解消＋定住’につながっている。

○ 彦根の中心市街地の活性化策であるチャレンジショップ制度（※2）は、小矢部市でも効果があるのではないかと。



- (※1) 空き町屋を借りたい・買いたい人への物件の紹介や説明、物件の維持管理作業などの専門的な対応は、コンソーシアムに所属する不動産業者が行なうなど、民間業者による営利以外の活動に支えられている。
- (※2) チャレンジショップひこね・・・彦根商工会議所が行う、中心市街地商店街の空き店舗の出店希望者への支援制度。出店者は、商工会による家賃助成・広報等の支援・経営指導等を受けることができる。



## ② 竜王町「三井アウトレット滋賀竜王」と町活性化の取組み」

(竜王町 政策推進課 松木課長)

- アウトレットの建設について、竜王町の場合は町が積極的に誘致してはならず、町としてのアウトレットへの関与も限定的な印象
- アウトレットとインターチェンジの距離について、竜王が0.5kmに対し小矢部は3～8kmもあるが、逆にその距離こそが市内に人を呼び込むチャンスになるのではないか。
- アウトレット竜王内にあるアウトドアショップでは、竜王町の自然を楽しむイベントを企画するなど、店舗との取組みを実施



## (2) 平成 27 年度実施分

### ア 日 時

平成 27 年 9 月 4 日（金）～ 9 月 5 日（土）

### イ 視察先及び目的

#### 【1 日目】

- ①新潟県南魚沼市 : 「LIFE in」を始めとした移住・定住対策
- ②新潟県十日町市 : 「十日町ナビ」による市内観光スポットへの誘導

#### 【2 日目】

- ③④新潟県長岡市 : 市民協働による学び・交流・にぎわいの継続的な創出

### ウ 参加者

委 員 津田座長、田中副座長、小原書記、和田委員、笹本委員、  
中川委員、森井委員

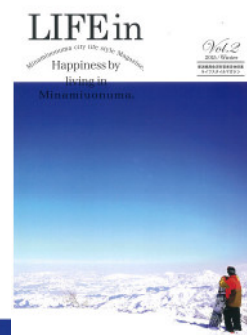
事務局員 上田

計 8 人

### エ 視察研修内容まとめ

#### ①南魚沼市「LIFE in（若者定住促進ライフスタイル WEB SITE）」 （南魚沼市 企画政策課 高橋主幹）

- 若者の定住を促進するため、「LIFE in」というイメージ路線による冊子とHPを用いた定住施策を展開
- 「市内出身者の若者に自分が生まれ育った地域を再認識してほしい」「デザイン重視で他市町村との差別化を図る」という趣旨でスタート
- 今後は、イメージアップ的な意味合いに事業との連動性を持たせ、SNSや口コミによる拡散を目指す。



## ②十日町市「十日町ナビ（観光アプリ）・大地の芸術祭」

（十日町市 観光交流課 庭野係長、総務課 樋口主事）

- 十日町ナビは、市内の観光スポット、大地の芸術祭作品、温泉、食事処、トイレ、駐車場などを探すことができ、現在地から目的地までのルート表示・ナビ機能などを持つスマートフォン用の無料観光アプリ
  - 平成22年度「職員知恵出し会議」での提案がきっかけ。
  - 大地の芸術祭（※）を巡る際の利用者が多い。
- ※新潟県越後妻有地域（十日町市・津南町）で3年に一度開催され、期間中の来場者数が約50万人を超える世界最大規模の国際芸術祭



## ③アオーレ長岡「市役所窓口や市民交流機能を持つ複合交流施設」

（長岡市 市民協働推進室 勝沼主査）

- アオーレ長岡は、建築家 <sup>くまけん こ</sup>隈研吾氏の設計による、5千人を収容できるアリーナ、開放感のある屋根付き広場、そして市役所が一体となった全国初の複合型施設
- JR長岡駅前にあり、人通りの多い駅前大通り側に大きな空間を設けるなど、いつでもどこからでも入れるオープンな思想で、市民が思い思いに活動や交流できる場所を目指している。
- 市民に使ってもらうことを第一に考えられた施設であり、現在でも高い稼働率を維持している。



広場に面した開放的な1F議場

#### ④ まちなかキャンパス長岡「学びと交流の拠点」

(長岡市 まちなかキャンパス長岡 多田室長)

- 平成23年9月に長岡駅より徒歩5分のところにオープンした「学び」と「交流」の施設
- これまでの生涯学習や社会教育の枠を超え、市内3大学1高専と長岡市が協働で「学び」をプロデュース
- 「まちなかカフェ」や「市民プロデュース講座」など多彩な講座を通じて、まちなかに新たな「交流」を生んでいる。
- そして「学びと交流」の創出により、中心市街地の活性化を目指す。



#### (3) 研修の感想(まとめ)

- ◇彦根市における「空き家バンク」では古い町屋という特殊な魅力のある物件を取り扱っており、小矢部市において同じ体制で運営するのは難しいと思われる。
- ◇彦根市における「空き家バンク」成功の要因の一つは、異業種(産官学金)がうまく連携しながら継続的に運営している点にあると思われる。
- ◇アウトレットとインターチェンジの距離について、竜王が0.5kmに対し小矢部は3~8kmもあるが、逆にその距離こそが市内に人を呼び込むチャンスになる。
- ◇南魚沼市における若者に狙いを定めた定住促進事業は効果的であり、また、若者に喜ばれそうなデザインで構成された冊子「Life in」は、イメージ戦略の一環として有効な手法の一つであると思われる。
- ◇十日町市のようなナビアプリを小矢部市で展開するとすれば、クーポンなど利用者への直接的なメリットがないと使ってもらいにくいのではないかな。
- ◇長岡市にある「アオーレ長岡」には、市民がいつでも気軽に健康メニューを飲食できるタニタ食堂があったり、そのすぐ近くには、郷土・文化・食など多様なテーマの教養を深める講座が開講される「まちなかキャンパス長岡」という施設もあり、市民が健康づくりや生涯学習に意欲的に参加できる仕組みがあった。